



図91 古墳の位置 2万5000分1地形図〔弥彦〕



図92 観音山古墳 上、墳丘 下、葺き石

観音山古墳 西蒲区樋曾

観音山古墳は西蒲区樋曾の丘陵上にある。平地との比高は三五メートルである。現在は山林で、北へ約五〇〇メートルには山谷古墳がある。

発掘調査は行われていないが、昭和五十八（一九八三）年に新潟大学考古学研究室によって測量調査が行われ、直径約二六メートルの円墳と考えられている。また、古墳の斜面に小ぶりの石が比較的まとまった状態で確認された。古墳が造られた当初は、石（葺き石）を斜面に張り巡らせて墳丘を固め、飾っていたのである。古墳の周囲の一部には周溝と思われる窪みも見つかった。土器などの遺物が見つかっていないため観音山古墳の年代は不明であるが、西蒲塚古墳に後続して造られた有力者の墓の可能性が高いと考えられている。観音山古墳に

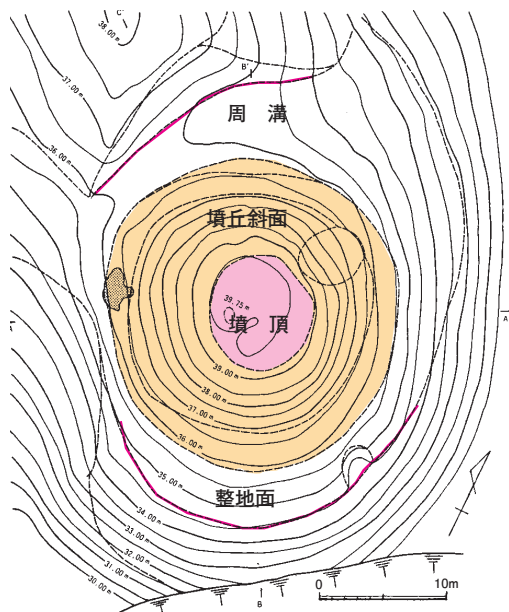


図93 観音山古墳復元平面図 「新潟県岩室村観音山古墳測量調査報告」から作成

葬られた有力者が生前住んでいた集落としては、古墳の眼下にある高島遺跡が第一候補に挙げられるが、遺跡の内容には不明な点が多い。近くの御井戸B遺跡が生前暮らした集落である可能性も考えられる。

新潟県内では、石を斜面に張って墳丘を固め、飾った古墳は少なく、市内西区の緒立八幡神社古墳（一一二ページ）と南魚沼市の飯綱山一〇号墳などがあるに過ぎない。このうち緒立八幡神社古墳に使われた石は、観音山古墳周辺の丘陵で採取したものを西川などの河川を利用して運んだ可能性が指摘されている。緒立八幡神社古墳と観音山古墳とでは造られた時期が異なる可能性が高いが、越後平野の信濃川左岸に位置する円墳という点で共通しており、それぞれの古墳に埋葬された人物の出身地や階層などの関連性が注目される。